

令和2年度 第1回
奈良市社会教育委員会議
会議録

令和2年7月22日会議

| 令和2年度 第1回奈良市社会教育委員会議 会議録 | | | |
|--|--|---|-----------|
| 開催日時 | 令和2年 7月22日(水) 午後1時30分から午後3時30分まで | | |
| 開催場所 | はぐくみセンター 8階 多目的講座室 | | |
| 出席者 | 委員 | 井上委員、岡田 _和 委員、岡田 _龍 委員、奥田委員、小倉委員、川田委員、川野委員、艸香委員、小北委員、中村委員【計10人出席】 (加藤委員、北出委員は欠席) | |
| | 事務局 | 教育長、教育部長、教育部次長、地域教育課長、地域教育課課長補佐、生涯学習財団事務局長 「3 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について」部分のみ担当課(地域づくり推進課、子ども育成課)出席 | |
| 開催形態 | 公開(傍聴人 1人) | 担当課 | 教育部 地域教育課 |
| 議題又は案件 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 正・副議長の選出について 2. 令和2年度補助金交付社会教育関係団体について 3. 令和元年度社会教育委員事業実績について 4. 令和2年度社会教育委員事業計画について 5. 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について 6. その他 | | |
| 決定又は取り纏め事項 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 正・副議長の決定 2. 令和2年度補助金交付社会教育団体の承認 3. 昨年度に引き続き、奈良市社会教育推進計画 事業評価シートの点検・評価の体制の構築と、今年度実施予定の奈良市社会教育推進計画の改訂についても、社会教育委員に協力を依頼する。 | | |
| 議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 正・副議長の決定 <ul style="list-style-type: none"> ・正議長に奥田委員が指名され、承認された。 ・副議長に、岡田(龍)委員、小北委員が会議長より指名され承認された。 2. 令和2年度補助金交付社会教育関係団体について【資料1】 | | | |

- ・補助金交付の承認にあたり、関連団体に所属する委員については一時退席の対応をした上、各団体及び事業概要の説明を行った。
- ・社会教育に関する事業を主たる目的とする社会教育団体「奈良市PTA 連合会」「奈良市子ども会育成連絡協議会」「一般社団法人ガールスカウト奈良県連盟奈良市協議会」「ボーイスカウトわかくさ地区協議会」及び「奈良ユネスコ協会」の5団体に対する運営補助を予定している。

【委員からの意見・質問等】

- ・「奈良ユネスコ協会」について

①昨年度から減額された理由は？

→昨年度と同額で要求をしたが、査定で減額された。

②構成にある青年部会員、一般会員の区別について教えて欲しい。

→後日回答することを確認した。

(回答) 青年部会員は15歳～35歳未満対象、一般会員は35歳以上(上限なし)対象である。(地域教育課)

- ・交付理由に、「規律ある団体活動を通じて子どもたちの健全育成に寄与する。」とあった。既存の規律を通じ社会に順応してだけでなく、新しい時代を切り拓いていく力として、自主性を育み、協働しながら新しいものを見い出していくような力をより一層高めるような取組が進んでいくと、これからの将来を担う子どもたちの育成にもつながるのではと期待している。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に関連し、例年通りのイベントやキャンプ等の取組もなかなかできないような状況下にあると思う。その中で、来年度の事業計画について工夫をされている情報等があればお聞きしたい。
→当課が所管する黒髪山キャンプフィールドや野外活動センターでも少人数での活動にする等、3密対策を取った上で、BBQや食事等の制限も緩和しつつ、事業を進めているところである。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動の自粛に伴い、実績も減ると次年度の補助金が減額される等の影響はないのか。
→課としては、例年とおりに要求をしていきたいと考えている。
- ・事業補助ではなく、団体補助＝団体運営・団体を育成していくための補助であるため、事業ができなかったことにより、補助金が減額されるというものではないという認識である。ただし、団体を育成する目的での補助であることは、団体が存在して成長していくことで、奈良市の社会教育がどのように良くなっていくのかということが団体に問われているということだと理解している。自己研さんの学習活動は自己負担という流れの中で、団体の会員だけが恩恵を受けるものではなく、会員となっていない子どもたちにも広く恩恵があるような活動を求められているということが前提であり、それを目指してもらいたい。

<補助金交付について承認された>

3. 令和元年度社会教育委員事業実績について【資料2】

- ・資料のとおりであることを説明した。
＜特に意見なし＞

4. 令和2年度社会教育委員事業計画について【資料3】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止や延期が決定している事業について説明した。
- ・各種大会の詳細な通知が届き次第、委員の方々に案内することを説明した。
＜特に意見なし＞

5. 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について

- ・【資料4】について、事前にいただいた質問事項の回答を聞いていただき、後日意見等の照会をさせていただく予定である。それを社会教育委員会議における意見等の総括欄にとりまとめる予定である。
- ・事前に質問いただいた内容について、各課から回答を行った。

【委員からの意見・質問等】

- ・「奈良県教育委員会からのお知らせ」について、地域の方や、自治連合会長からもいろいろご意見をいただいている。地域と学校が一体となって子どもたちを育てていくという目的で、学校運営協議会やコミュニティスクールという取組が進んでいる中で、③地域・保護者の皆様へのお願いの中にある「休日の地域行事等について、教員のへの参加要請や依頼は可能な限り避けてください。」というのは、地域教育協議会が子どもたちの学びになると考え、子どもたちを集める日が、休日である場合にも該当するとなると、「何のために地域が関わっているのか。」という思いになる。「地域の力を借りて」という文言はでてくるが、地域が関わることで、地域側のメリットは何があるのかということが語られていない。社会教育という立場から、地域が関わることで、大人たちが学べるもの、高められるものがあるのか。それを作っていないと、関わってくれる地域の方々がどんどん減っていくという事態にならないかという不安がある。それをこの場を使って考えていきたいと思っている。
- ・地域というものを奈良市がどうしようとしているのかという観点から現状11の地域自治協議会を今後、どのように展開していこうとしているのか教えて欲しい。
→地域自治協議会は、主に自治連合会が中心となって進めてもらっている。奈良市では、自治連合会が50地区ある。昨今、自治会加入率約70%、自治連合会の加入率約60%と加入率が下がる傾向が続いている中で、自治連合会が地域を代表する組織とはいえなくなってきた。その中で、各小学校区という区域で活動をしている団体もあり、それらが連携して地域で情報共有をして進めてもらいたい。将来的に

は全ての地域で自治協議会を立ち上げていただくことが目標である。また、この地域自治協議会では、自治会に加入されていない方も対象になるため、自治会の活動には参加できないが、何かこの分野の自分でできることなら。といったように地域の担い手も広がるきっかけになればと考えている。(地域づくり推進課)

- ・自治会や自治連合会は世帯で入るもので、自治協議会は個人で入るものと捉えてよいか。

→考え方としては、個人で入れるものであるが、実際には代議員制をとっており、各団体から何名か出してもらい意見を集約している。また団体に所属していない方でも参加できる公募枠もある。(地域づくり推進課)

- ・他でもそうであるように、地域自治協議会においても、同じ顔触れということは多いのか。

→そのような傾向はみられる。

→地域によっては、マンションの管理組合の方に入ってもらおうといった、新しい団体を巻き込むような動きはある。

- ・市がどのような目的でどの方向に進んでいきたいのか、そのために出てくる課題についてこの社会教育委員会議で相談してもらえれば、各々が持ち帰ってそれぞれの立場での考え方を返すことができると思うので、そのような活用の仕方をして欲しいと考えている。

- ・「奈良県教育委員会からのお知らせ」について拝見した上で、学校と地域が協力して共に子どもたちを育てていくという目的で地域コーディネーターが置かれ、学校教育と社会教育が両輪になって子どもたちの学びを支えてきたという経緯がある。ここで、学校の先生方の働き方改革といった観点で、地域での教育の部分に学校が入っていくのが難しいという方向性が出された。そのような制限がある中で、放課後や休日を含めて、地域とともにどのような思いをもって子どもたちを育てていきたいのか、どのような願いをもっているのか、その中で学校教育として関わっていく部分はどこなのかといったことが、地域にきちんと伝わらないと、地域と学校が分断してしまわないかという心配がある。

また、「子どもたちのために教員の働き方改革にご理解ください」とあるが、根底には教員の人権をどう考えているのか。という点があると思う。ただし、それを表に出しにくいから、このような表現になっていると思う。教員は、よりよい教育、新しい教育を子どもたちに提供するために新たに学んだり、研究開発したりする必要があり、生徒指導や学習指導等の中で、何に重点を充てていかないといけないかを整理をして環境整備をしているところであると思う。それが本質だと思われるが、「教員は月に45時間の時間外勤務を超えると働けません。」や「45分の休憩時間は自由時間なので～」となっていて、文言だけを見てしまうと、子どもたちのために。というところが見えない表現になってしまっているのが残念に思った。子どもたちの育ちを考えた時に、学校として、こういったことはできるけど、こういう

ことができません。といったように、もう少し価値が共有できる部分を示せたら、地域の理解も深まるのではないかと思う。

また、「学校を通じた配布物は避けてください。」とのことだが、自分の関心のあるアンテナを張っている子が自ら情報を見つけることは、とてもハードルが高いが、学校では対象である不特定多数の対象の世代の子が必ずいる場であり、その学校に様々な情報が集まることで、子どもたちにとって学校ではできないような体験の機会を得る、そのようなチャンスを与えてあげたり、世界を広げてあげたりできる選択肢がたくさんあることになる。確かに配布物が増えることで業務の負担になると思うが、そのような面もあることを知っていただきたい。

→県の教育委員会で作成されたものであり、推測でしか言えないこともあるが、教員の働き方改革がまったなしのなかで、県としても、より具体的に何かを示す必要があったのではと思われる。この中の一つ一つの文言を取り出すと、全て納得できるような表現になっていない部分はあるという意味でご指摘をいただいたと思うが、決して地域と学校を切り離し、現状の全てが学校の負担になっているということをお願いのではないはずであり、コミュニティスクールや地域教育協議会の担当課である当課においても、地域やPTAの担っていただいている役割の重要性についても深く認識しているところである。また、課としてもできる範囲（学校への配布物の見直しを行う等）で教員の負担を減らすための対応もしているところである。

- ・小学校の現場にいる者としては、地域の方々の協力なしには成り立っていかないと考えているし、非常に感謝している。また、教員の負担を減らすため、全児童への配布物については、玄関にロッカーを設けて配布数の分配は当事者にお願いする等の工夫をしている。

- ・地域コーディネーター研修について、何年間も研修をされて、豊かな実践の蓄積がされていると思うので、その蓄積が生かされるような発展や深まりが見えているようであれば教えて欲しい。

→後日回答することを確認した。

→（回答）基本的には地域コーディネーターの困りごとや課題を聞いた上で研修企画をしているため、アンケート結果による満足度が高い研修になっている。研修内容以外においても、研修に参加することにより深まる横のつながりや交流がコーディネーターの支えになっていることも多く見られる。また、初任者研修に参加したコーディネーターが実践活動を経て、数年後には初任者研修の講師になる等の例もあり、これは持続的な研修の成果であると思われる。（地域教育課）

- ・家庭児童相談室の相談件数も多いということで、スタッフの人員は十分な人数の確保がされているのか。

→後日回答することを確認した。

→（回答）平成30年度より子ども家庭総合支援拠点として相談体制を強化し、相談員を増員した。社会福祉士、臨床心理士、保健師、保育士等の専門職が子どもが成長

していく中で家庭が抱える悩みごとを聞き、一緒に考えながら、それぞれの家庭にあったサポートを実施している。(子育て相談課)

- ・「ささえる3-1」のシート青少年野外体験施設の運営管理事業の中で「地元各種団体の交流の場としての提供を目指しましたが、環境が整わず実現に至りませんでした。」とあるが、どのような環境を整えば実現に至るのか、応援できることがあるのか、現状について詳細を教えてください。

→後日回答することを確認した。

→(回答)地域の団体(自治会、万年青年クラブ、消防団、営農組合等)と文化体験(餅つき体験、草履作り体験、昔話聞かせ体験)、農業体験(田植え・稲刈り・種まき・収穫)、地域連携事業(公民館活動との連携、バンビーホームとの連携)(地域教育課)について検討をしていたが、予定している自主事業との人員の兼ね合いや日程等が調整できずに実施までには至らなかった。

なお、今後も幅広い世代間の交流や地域間の交流を推進していくためには、青少年施設の「青少年」という枠を外すことで、現状の目的外使用という手法よりも手軽に利用客の幅を広げることができて固定化を解消することができるのではという思いがある。(青少年野外活動センター)

- ・評価シートに記入されている所管課からの評価にある「A~E」の「E」は何を示すのか。

→Eは、直接的な項目でないため、A~Dを選択できないという意味である。評価シートに表示していなかったため、今後A~Eの評価内容の詳細(A:良くできた B:できた C:できなかった D:全くできなかった E:その他)を表示する。

6. その他

- ・奈良市社会教育推進計画事業評価シートの点検・評価を継続して実施するためのスケジュールを提示し、社会教育委員からメンバーを募った上でご協力いただきたいことを説明した。また、今期は奈良市社会教育推進計画(以後、計画)の最終年度であるため、計画案についても同じメンバーからご意見をいただきながら改訂する予定であることを説明した。

- ・メンバーについては、前期からリーダーとして活躍いただいている川野委員に入っ

ていただきたい。

→川野委員が協力いただくことについて了承。

- ・その他に協力いただく委員として、中村委員が参加希望された。

- ・他のメンバー候補等については、事務局と連絡をとりながら進める。

| | |
|--------|--|
| 資 料 | 【資料1】令和2年度補助金交付社会教育団体一覧 【資料2】令和元年度社会教育委員事業実績 【資料3】令和2年度教育委員事業計画 【資料4】奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告 【資料5】奈良市社会教育推進計画の事業評価と改訂の流れ |
|--------|--|